

周辺視目視検査法セミナー

～目視検査の生産性を倍にする画期的な手法を学ぶ～

外観目視検査では一般的に「集中」して「不良を探す」ことが求められます。実はこれが見逃しをまねく大きな要因となっています。集中力は短時間しか持ちません。ベテラン検査員は「良品の確認」と「リズム」で検査をしています。

本セミナーではベテラン検査員の機能分析と目の機能展開にもとづいて開発された新しい目視検査法「周辺視目視検査法」を学びます。周辺視、瞬間視、衝動性眼球運動という視覚システムの活用とリズムによって生産性は倍になり、さらに照明などの作業環境を最適化することで見逃しを削減することができます。また、検査員の健康改善にも効果を発揮します。

検査作業の改善や検査員の育成でお悩みの指導者・管理者の方々に聞いていただきたい構成になっています。

とき：2017年8月29日 火 10:00～16:45

ところ：山口県産業技術センター [1階:多目的ホール]
(山口県宇部市あすとぴあ4丁目1番1号)

講師：周辺視目視検査研究所代表 佐々木 章雄 氏 定員30名
(補佐：香川大学工学部教授 石井 明 氏) 個別相談受け付けます。

参加対象者 ものづくり企業の目視検査に関わる管理者・指導者および検査員の方

申込方法 参加申込書に必要事項を記入のうえ8月18日(金)までに、ちゅうごく産業創造センターまでお申し込みください。申し込み受付後、参加確認メールをご送付いたします。

参加費 無料

お申し込み・お問合せ先 公益財団法人 ちゅうごく産業創造センター [担当：調査部 岸本]
〒730-0041 広島市中区小町4-33(中電ビル2号館)
TEL 082-241-9927(代表) FAX 082-240-2189

主催:公益財団法人ちゅうごく産業創造センター

後援:山口県

● カリキュラム

講義(第1部) 10:00~11:45

実習

14:30~15:30

講義(第2部) 12:45~14:30

個別相談会(希望者対象) 15:45~16:45

項目		内容
1	周辺視目視検査法の理解	① 従来の官能検査の特徴と問題点 ② 大脳視覚システムの機能と限界 ③ 周辺視目視検査への切り替え ・集中視力から周辺視力へ ・凝視から瞬間視へ ・滑動性眼球運動から衝動性眼球運動へ
2	周辺視目視検査法の導入方法	① 原理の正しい理解 ・周辺視目視検査法は大脳視覚システムの疲労を大幅に軽減する ② 限度見本の作製 ・「視覚」記憶の作り込みのために現物で訓練する ③ スムーズなハンドリング ・1日中作業することを考慮したリズムカルな動作の構築 ④ 正しい作業姿勢 ・リズムがよい疲労の少ない作業姿勢になる ⑤ 導入時の特徴 ・リズムができていないときに見られる特有の現象など
3	見逃しの原因となる検査対象物と光源の関係	① 明るいほど見やすいか ・照明の明るさより眼に届いたときの明るさが大事 ② 検査用途ごとの光源の種類と適用方法 ・平行光、拡散光、透過光の正しい使い方と眼精疲労を改善 ・ビームライトによる透過検査の見逃しの理由 ③ 単純な見逃しに多い「明順応」と「暗順応」 ・「明順応」と「暗順応」とは、どのような現象か ・危険な状態である「馴化」とは、どのような現象か
4	周辺視目視検査の事例紹介	・海外工場、国内工場での事例
5	うまくいかない検査方法	・光源の種類と配置、拡大鏡検査、多数個取り
6	検査員の健康状態の変化	・検査員の健康状態の変化・Fスケール問診票
7	実習(石井教授) (周辺視目視検査法ワライン訓練)	・周辺視目視検査法未経験者および管理者の訓練 ・訓練、導入過程の定量評価

個別相談会(佐々木・石井)

1社 10~15分程度【予約制・・・申込時に記入下さい】

● 講師紹介(佐々木 章雄 氏)

1970年 日本IBM 藤沢工場に入社以来、一貫してIE(Industrial Engineering)業務に従事

1998年 特に専門とする動作分析を基礎として検査作業の分析と機能展開により「周辺視目視検査法」を開発。

2003年 HDD事業部が日立に売却された後、一時早期退職し中国の企業でIEの指導を行っていた。また、日立グローバルストレージテクノロジーズ(GST)の海外量産工場生産性向上の指導のほか、「周辺視目視検査法」の共同研究を行う傍ら、同検査法のセミナー講師やコンサルタントを行う。

2012年 日立GSTを退職後、周辺視目視検査研究所を設立。

* 現在、同検査法のセミナー講師、コンサルタントとして活躍中。精密工学会画像応用技術専門委員会の香川大学工学部石井明教授グループ(感察工学研究会)との研究も行っている。